

# 自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

## 地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

### ○記入方法

#### [取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

#### [取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

#### [取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

#### [特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

### ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

### ○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム けやき荘
(ユニット名)	
所在地 (県・市町村名)	長崎県東彼杵郡川棚町小串郷1960番地1
記入者名 (管理者)	川 寄 英 文
記入日	平成 19年 8月 30日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>				
1. 理念と共有				
<input type="checkbox"/>	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念はできているが、時々、業務におわれて理念通りに行かない所があったりして、後で反省したりしている時もある。	○	常に理念を思い出し取り組んで行きたい。
<input type="checkbox"/>	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	常に見える所に理念を掲げて、朝のミーティング時や新しく入った職員には意識付けしてもらう様に言葉かけしたり読み上げしている。 (ミーティング・記録・スタッフ会議等)	○	常に日頃から身に着けて業務に入って行ける様に声かけして行きたい。(特に新しく入った職員・パートの方にも)
<input type="checkbox"/>	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	家族の面会時、訪問時、推進会議等で常に理念・状況を伝え、見て頂き説明している。	○	地域のイベント(夏祭り・運動会)には進んで参加しているが、もっと進んで老人会の会合などに参加し、地域との交流を広げて行きたい。
2. 地域との支えあい				
<input type="checkbox"/>	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	近所を散歩したりした時などに知っている方などに声かけが良くあり、気軽に寄って頂いている。 畑仕事などしている時などにも、立ち寄って話しかけてもらったりする。		
<input type="checkbox"/>	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内の行事(敬老会・運動会・夏祭り・老人会)などに常に参加させて頂いている。 地元のふれあい祭り・夏祭りにも声かけしたり、声かけられたりし参加している。		

グループホームけやき荘

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	<p>町内のグループホーム協議会・病院からの医療についての勉強会(対応の仕方・緊急時の対応の仕方)などに進んで参加している。 (業務で来れないスタッフには交代で参加する様にしている)</p>	○	<p>新しく入ったスタッフ・パートの人達のも、もっと勉強会に参加して頂いて認知症の人を理解してもらう様に取り組んでいきたい。</p>
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>全部の職員で話し合いながら自己評価している。 外部評価の結果も報告し見直している。 (スタッフ会議。ミーティングなどで)</p>	○	<p>他の事業所(グループホーム)を見学したり、研修・勉強会をして来た事を参考にして行きたい。</p>
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>事業所からのホーム内容などを説明し、行政・民生員・家族に理解して頂く様に、質問・意見・要望などを聞いて説明している。要望なども家族から聞き、出来る事は取り入れる様にしている。</p>		
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>常に意見・問題等などは、行政に行って相談したり聞いたりしている。 (介護保険課には、ケアサービスプラン等などについて相談している)</p>		
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>研修などで勉強して来た職員は知っているが、ホーム内での制度等などに対しての方が、まだ適応していない為、説明していない。</p>	○	<p>ホームの中に制度に対して必要な人がいないが勉強して説明して行きたい。</p>
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>研修などで職員全員が勉強しているし、理解もしている。 ホームでの職員は常に心がまえを持っている。</p>		

グループホームけやき荘

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>入所時、常に家族の方には不安・疑問を持たない様に、わかりやすく説明し理解・納得していただいている。説明不足の時は後から説明し理解してもらっている。</p>	
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>利用者の方の意見・悩みなどを言える様に言葉かけや、話しやすいスタッフなどに言える様な状況を作っている人もいる。問題等がある時はスタッフ会議などで話し合い対応している。</p>	<p>○</p> <p>利用者の方がどのスタッフにも、なんでも話せる様な状況を作る様に取り組んでいきたい。</p>
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>常に面会時、訪問時に状況を知らせている。来れない方にはTELで現在の状況を連絡している。(体調不良なども知らせて見に来ていただく事もある)</p>	<p>○</p> <p>利用代は振込みでなく、1ヶ月に一度は面会に来れる様に利用代をホームに払いに来ていただいている。(ほとんど来ない人の為にも)</p>
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>今まで特に苦情・意見がなかったが、要望などは聞き勉強会・スタッフ会議などで話し合い運営に反映している。</p>	<p>○</p> <p>特に問題になる様な苦情・意見はなかったが、もしかしたらあったかもしれないので話せる状況を見直して作ってきたい。</p>
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>ミーティング・勉強会(スタッフ会議)等などの話し合いの時に意見を言える様に話しかけをして聞いている。個別的にも取り組んでいる。</p>	
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>初めての面談(面接)時に希望を取り入れて、皆さんが納得の行く様に、ある程度は取り入れている。急な休みの時(職員の)のパートも確保している。</p>	<p>○</p> <p>子供さんがいる方には、なるべく日曜日などに休みを取れる様に配慮している。(勤務体制をしている)</p>
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>新しく入った職員の方に利用者の方が慣れる様に安心感を持つ為に一人一人に自己紹介をしてあげる様に伝えている。異動がある人にも挨拶して行く様に話している。(状況を見てから)</p>	

グループホームけやき荘

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>常に業務に入っているパートの方にも研修会・勉強会(スタッフ会議)に参加していただいている。(職員同様に研修に行ってもらっている)ただ研修報告については時間が取れず全員には報告未定な所がある。</p>	<p>○</p> <p>徐々に時間を取り研修報告を取り入れて行きたい。利用者に対してのいいケアをしていただく様に取り組んでいきたい。</p>
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>全国認知症グループホーム協議会に加入し研修や情報を得ている。町のグループホーム協議会があり交換研修・スタッフ研修を行っている。地元の病院(相談員)等との連携を持って勉強会にも参加させていただいている。</p>	<p>○</p> <p>地域のグループホーム協議会に加入しているが他の市町村の同業者との交流が少ないので交流を広げ深めていきたい。</p>
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>スタッフ会議・勉強会などに全体としての悩み・相談を聞いている。個別に相談がある時は他の日を決めて場所を作ったりし聞いている。(職場を離れた時になどに聞く時もある)</p>	
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>運営者・管理者共に常に業務に入り、加わって利用者・職員の事を把握している。</p>	<p>○</p> <p>運営者・管理者は休みでも常に何か行ったり、緊急時等などが行っても対応できる状況にいるが職員同士全員が対応できる様に取り組んでいきたい。</p>
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>事前面談をして相手の気持ちを聞く様にしている。(自宅・病院)(家族にも入ってもらう)ホームにも来ていただいて見てもらい安心していただく。</p>	<p>○</p> <p>家族・利用者の方が安心できる様に話し合いとホーム見学を最初にしていただく様にしている。</p>
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>初めて来られた時、入所よりも最初に家族・利用者本人の話・困っている事・悩んでいる事を聞いてあげる事からしている。</p>	

グループホームけやき荘

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	困っている事、不安に思っている事などに対して、出来ない事でも話を聞き、相談やらアドバイスをしてあげる。 他の事業所に相談したりする。 他のサービス等なども助言したりする事もある。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	相談(入所)がある時は、管理者が出向いたり、ホームに家族・利用者の方に見学を兼ねて来ていただいたり、ホームの様子を見ていただいたりしながら安心感を持ってもらう様にしている。	○	ホームに何度か来てもらう様にしている。 (受け入れが困難な方には)
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の方で得意な事や、その方しか出来ない事を教えていただいている事もあり、業務の中で役立っている事もあるが、ゆっくり話を聞いてあげられない時もある。	○	業務の中で身体介護が多くなり、介助に追われて、ゆっくり話をしたり聞いてあげられない現状があったりするので状況を見ながら向かい合っていきたい。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	利用者の方の問題行動があった時は、常に家族に相談し話し合い利用者の方がホームでの生活を安心して過ごせる様に話し合ったりする時もある。 (状況に応じてはホームで対応できる事はホームでしている)	○	利用者の方が問題的な行動で知りたくない家族もいると思いますが、常に家族には知ってもらいたい為、連絡して行きたい。(話し合う場を作っていきたい)
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人と家族のつながりが持てる様に、利用料は振込みではなく払いに来られる場を作り、面会をして頂く様にしている。 行事(誕生会・敬老会)に声かけし参加していただいている。	○	家族の方がホームに来られる事により本人は安心され家族にもホームでの生活内容たとえば誕生会がこんなふうに行われているという事をわかってもらえる為に参加していただいている。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	体調が良い時は同窓会に行ったりできる様に配慮しているが、体調不良・低下してきた為、連れて行くのも困難だったり、墓参りにも行く回数が少なくなったりしてきているのが現状です。(支援には努めている)	○	盆・正月時などに知人や親戚・近所の方に会うのが楽しみで帰ったりしていたが体調が低下した為、家族の方も家に連れて帰るのも困難という事で帰る機会が少なくなったので、いい方法がある様に考えていきたい。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士の関係でトラブルがあった時にスタッフが対応し、エスカレートしない様になりに入り声かけや話題を変えたりしながら支え合う様に努めている。	○	利用者同士のトラブルは起きる前に常にスタッフが中に入り、声かけしたり対応したり取り組んでいきたい。 新しく入った職員に認知症を理解して行ける様に研究会などに行ってもらう様取り組んでいきたい。

グループホームけやき荘

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	入院されたり他のホームに入所された方の所には時々行ったり(近く)TELしたり様子をうかがう様になっている。どうしているか、落ち着いて生活しているか入院の時でも、退所された後も行く時もある。	○	家族の方にも時々会ったりしている。(地元の方で家も近所なので)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
<b>1. 一人ひとりの把握</b>				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	常日頃、本人が口にされている事や、意思表示の困難な利用者には、スタッフが本人の気持ちになったり、家族の方から情報を得ている。	○	モニタリング時期にICFの視点に基づき立ち上がりシートを活用したニーズの捉え方に取り組んでいる。本人の全体感がよく見えることに気づいた。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	どの利用者、家族からの情報は、簡易アセスメントセンター方式の一部を使用し把握に努めている。生活の中で把握できる事も多い。	○	センター方式の活用(一部でもよい)
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	入居前から入居後の生活状況・ADLの変化を記録し全体的に把握している。	○	今後も現状システムで把握して行く。
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	日常的に本人と話したり、面会時又は電話で家族に尋ねたりしている。スタッフ会議時に本人・家族の意向を話し合いスタッフの意見をもとに計画を作成している。	○	スタッフ全員がプラン作成に参加できる様又、全員で話し合いながらプランを作成していきたい。(パートの方も)しているけどなかなか業務の関係で全員参加ができていない)
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	期間に応じて見直し、状況変化に応じて見直しは必ず行っている。退院後は主治医の指示・本人・家族の意向を聞き計画作成している。	○	入退院後のサマリーをもっと活用しやすい内容にしてもらえる様に病院側と話していきたい。

グループホームけやき荘

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の介護状況や生活ぶりについては個別の介護記録を元に情報共有している。内容が見直しの必要な場合は常に行っている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	外出時の送り迎えや通院介助は、必要に応じて行っている。それにより家族の方からも安心していただいている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	利用者の方が安心して地域での暮らしを続けていける様に民生員・老人会に協力を得ている。	○	他に婦人会・ボランティア等などにも声かけし働きかけていきたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	特に行っていない。	○	今後、必要に応じて行って行きたい。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	推進会議に地域の包括支援センターの職員が参加する事によりホームの内容を見てもらったり、情報交換として協力してもらっている。	○	行事等(ホーム)にも参加してもらっている。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望のかかりつけ医と協力し時間外でも往診できる様(対応)協力してもらっている。		

グループホームけやき荘

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	<p>事業所・利用者・家族・職員の相談を聞いてくれたり、主治医との交わりを持って協力を得ている。 診断情報や治療方針・認知症についての助言、指示をもらっている。</p>	
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	<p>深夜の体調不良時の判断で連携を持って対応できるようにしている。(24時間体制ができています) パートの看護職員との連携を持っていない時は記録をもとにして対応している。(薬の管理をしている)</p>	
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	<p>常に病院との情報交換や相談に努めている。(入院した場合、かかりつけ) 家族同伴の元でしている。 ホームで対応可能な段階でなるべく早く担任できるようにアプローチしている。</p>	
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>家族の意向・本人にとってどうしたら良いのか話し合いの場をつくっている。 入居時には説明しているけど常に状況を知らせている。</p>	
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	<p>本人と家族の意向を踏まえ、医師・職員が連携をとり安心して納得した最後を迎えられる様に行っている。ホームで生活している様に支援している。</p>	<p>○ 本人の気持ちを大切にして又、家族も安心できる様に行っているが、尚もっと今まで以上に取り組んでいきたい。</p>
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>利用者の方の環境や暮らし方の変化によるダメージが最少となる様、本人に関する関係者の協力を得て取り組んでいる。 暮らしやケアの継続が保たれる様に個別情報の伝達、プライバシーに配慮している。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	勉強会・ミーティングに常に職員には言葉かけをしている。プライバシーを守る為の契約書を一人一人のスタッフに書いて出してもらっている。	○ 時々、業務に追われ目立たずに、さりげな対応、言葉かけが欠けている時もあるので、常に体に植えつけて行う様、日頃から声かけていきたい。 (新しく入った職員には常にしていきたい)
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	業務に追われ(一人一人が身体的に低下している為)ゆっくり話を聞いたり、本人に合わせた対応が時にはできない時もある。	○ 新しく入った職員指導に力を入れて研修会・勉強会を増やしていきたい。 認知症が進んでいる人には、相手に合わせた介護対応していきたい。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人の体調・気持ちに合わせた介護・支援を行っているが、その時その時で業務の流れで希望にそっての支援が足りない時もある。	○ 職員一人一人が余裕を持って対応していける様に声かけ、勉強会で話し合っ行ってきたい。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	できる方にはしていただいているが、出来ない方には声かけしながら介助させてもらっている。 散髪は職員がしている様にしている。(本人に聞きながら行っている)	○ 出来るだけ利用者負担がない様に常に心がけている。 気にする人には理容店に行ってもらっている。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	出来る人のみ手伝ってもらっている。(声かけしながら)ホームで出来た野菜など使って皮むきしたりは出来ることは全員ですてもらっている。	○ できない人も一緒にその中に入ってもらって声かけしながら手伝ってもらっている。 (買い物など一緒に手伝ってもらっている)体調に合わせて..
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	ホームでお酒を飲める人はいないが、行事等などの時は皆さんで軽く甘いワイン・梅酒を飲んだりする時もある。(声かけしながら)	○ たばこを吸いたい方が一人おられたが火の始末・火災等の関係で、家族との話し合いにより現在はやめている。(納得された上で)

グループホームけやき荘

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	オムツ使用の方でも昼間はできるだけトイレ介助にて行っている。(声かけしながら) 声かけてトイレ誘導している。	○	夜中のみPトイレにて居室で行っている。見守りしながら、声かけしながら行っている。 トイレに来られる方はトイレにて行っている。(見守り)
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一人一人の体調・都合にあわせた入浴・シャワー浴をしている。午前中、気分的に入りたくない人には声かけしながら午後から入れる様な状況をつくってあげたりしている。	○	一人一人にあった入浴介助を行っている。 入りたくない人には事情を聞いて声かけながら入れる状況をつくりながら介助している。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	食後、体調に合わせて横になりたい人は自由に居室で休んだり、居間で皆さんが居る所に居たい人にはそういう状況をつくっている。(本人に合わせている)		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	畑仕事の好きな人には畑を任せて野菜を作ったりしている。できた時は皆さんで皮をむいたり、芋堀りをしたりして本人の楽しみ、張り合いにもなっている。 縫い物が好きな人には、ほころび、布切りなどしてもらっている。(声かけながら)	○	必ずする時は(縫い物)スタッフが一緒について針の確認したり行っている。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分で持っていたい人には家族と話し合い、お金も決めたりしている。(常に忘れる方はサイフに少し入れたりしている) 大金は金庫に預かっていたりしている。聞かれる時は常に声かけてノートを見せたりし安心する様にしている。	○	外出時、買い物などは時々、自分で払う時もあるが、声かけにてスタッフが対応する時もある。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	畑仕事をされる方には常にスタッフ同伴か声かけしてもらっている。老人会の行事等・グランドゴルフに出かけている。(送り迎え) 老人会の責任者には事前にお問い合わせしてもらっている。	○	町の行事に参加している。(敬老会・運動会・夏祭り) 花見・ドライブは、なるべく全員参加する様に心がけている。(体調を見ながら)
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	体調低下もあり前と比べたら家族との外出も少なくなってきた。 声かけドライブ(本人の家の近く・近所)に行ったりし知人に会い話をしたりして喜ばれる。	○	ホームからの家族への共に行われる機会を作っていないので、声かけしながら行っていきたい。(特にお盆・お正月ぐらい)

グループホームけやき荘

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	常に本人がTEL掛けたい時は、居室などで掛けたりフロアで掛けたり自由にしちる。 希望に応じて対応している。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族等など遠い所から来られた時は泊まっていたり、食事を一緒にしたり配慮している。 同級生なども来られホームと一緒に食事をしたりしていただいている。	○	何度か娘・姉妹さんが遠い所から来られ泊まっていた事も何度(2~3人)があるし、今後も家族・友達なども泊まっていける様にどの方でもできる状況を作っていきたい。
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修・勉強会などに進んで行ってもらっている。 職員は日頃業務の中で行っていないと思っても、利用者の方で思っている方はいるのでは・・・と思う。	○	勉強会・研修会がある時は常に行く様、心がけし行っていきたい。 言葉使いでも気をつける様に声かけしながら行っていきたい。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室には鍵はかけていないが、夜中、ドアに杖をかけて寝る方が一人いるが家族とも話し合い緊急な時にはホームで対応する様に話し合いもしている。	○	常に転倒しやすい方には家族の了解を得てセンサーを取り付けているが状況に応じてはしない時もある。(プライバシーもあるので) スタッフが常に目配り、気配りする様にしていきたい。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	常に記録等などの時も利用者さんの居る所で(ソファ・テーブル付近)見える所一緒に座ったりしながら行っている。何気なく自然な感じで行っている。	○	夜勤時も音が常に聞こえる所にいる様にしている。 起きてきても全体が見えてわかる所で行っている。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	一人一人の状況に応じて必要な物は持って来ている。(入所時説明している) 裁縫道具でも使う時はスタッフ同伴にて行っている。	○	状況に合わせて保管すべき物はして使う時は注意しながら使ってもらっているが、危険がない様に常に目配りしていきたい。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	転倒などがありヒヤリハットの記録を書いてスタッフ会議などで話し合い事故防止に心がけている。 入院等があった時は常に役場に書類を提出している。	○	事故・転倒が起きた時は常にその後の対応を充分にする様に心がけし、話し合っているが、今後も行っていきたい。

グループホームけやき荘

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	スタッフ会議等で話し合いをしたり、事故・転倒する時もあるが定期的には行っていない。 緊急対応についてはマニュアルを作っているし話し合いをしたりしている。(火災・事故の時に機具を取り付けている)	○	消防の方に協力を得て、救急手当、蘇生の実習を行った事があるが、年に一度は行っていけたら・・・と思っている。(全職員)
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	地域の消防団の方には、いつでも協力を得られる様に話をして訓練もしていただいている。 年2回は消火器点検・消化訓練も行っている。地域(近所)の方に協力得ている。(通報訓練)	○	新しく入った職員には行っていない人もいるので行っていきたい。(消化訓練・通報訓練など)
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	常に家族には面会時や問題行動がある時は話をして理解していただいている。対応策も話し合いをしている。	○	特に面会に来られない家族にはTELして状況を伝えている。
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	日頃から健康チェックしたり一人一人の体調には気をつける様、努めている。異変に気づいた時は早めに主治医に連絡して対応している。 定期的に病院受診・往診を行っている。	○	早期発見に常に取り組んでいるが、新しく入った職員にも常に声かけもしながら取り組んでいきたい。(申し送り等などでも)
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の管理は全員ができる様に行っている。 服薬ファイルを作成し処方箋のケースに毎日セットし、全職員ができる様にしている。(申し送り・健康チェック表を見たりしながら)	○	薬の内容がまだ理解していない所があり薬が変わった時などの内容をもっと理解する様に取り組んでいきたい。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	常に全職員が日頃から一人一人に健康チェック表を見ながら行っている。(食事・下剤の調整をしながら行っている)	○	体操したり、散歩などで動きも増やしていきたい。(水分補給なども)
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、一人一人に声かけしたり、できない人はスタッフ対応で行っている。 進んでしない人には声かけして行っている。(その都度に)	○	入れ歯の手入れ、消毒も行っている。 研修等も進んで行っている。(パートの方も)

グループホームけやき荘

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養管理の方は栄養士(職員)が居るので献立表をチェックしてもらっている。 食事・体重のチェック表も作って記録している。(全職員で一人一人)	○	ホームでできた野菜を使って調理を行ったりしている。(薬を使っていないので)
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	研修・勉強会がある時は参加する様に努めている。 毎食後、手洗い、消毒に気をつけている。(声かけながら)(汚れた時は常に気をつけて洗い消毒する)	○	ペーパータオルを使用し、感染には気をつけている。 年に一回は家族の同意を得て職員共にインフルエンザの予防注射を受けている。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	スタッフ会議などで常に話をしている。 買い物も夏の暑い時は毎日行ったり、冬は2日に一回で賞味期限に気をつけて買い物している。	○	台所の衛生管理にも気をつけて消毒している。 なるべく暑い時は特に買いだめはしない様に気をつけている。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	造りが全部一階で外からも気軽に声かけたり、のぞいたりできる。外の風景が常に見えて季節感がわかりやすくなっている。	○	ホームの周りは皆さんが散歩(車イスでも)しやすい様にセメントで道を造りました。(後から)非常口には、いつでも出入りできる様にスロープも造りました。(段差をなくした)
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室でゆっくり出来る様に出入りしやすい様にしている。 周りに畑を作っているのので、いつでも野菜を見たり、花を作っているのので季節の花が常に見える様に造っている。	○	三月のお雛様には人形を飾ったり、五月の節句には、こいのぼりを飾ったりしている。七夕様には七夕を皆さんで作って、お願い事を書いて飾っている。 彼岸には皆さんで「おはぎ」作りをしている。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ベランダ、玄関の所に椅子をおいて自由に外をながめたりできる様にしている。 家族・知人の方が来た時は部屋でゆっくりしてもらっている。	○	テレビを一人で見たい人には居室でゆっくり見てもらったりしている。 季節の花がある時は花をテーブルに飾ったりしている。(彼岸花・コスモス・桜・あじさい)

グループホームけやき荘

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッド・タンス、本人の持ち物(使い慣れた物)を持って来て使っている人もいるが、購入した物でも自分の物と思って使用しているので問題は特にない。「お位牌様」を持って来られ毎日お参りしている人もいる。	○	入所時に使い慣れた物を持って来て下さいと、お話し説明しているが、古いから、汚れているからと購入して来られる方もいる。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	利用者の体調にあわせて調整している。(冷暖房) 常に天気の良い日には窓を開け、空気の入替えをしている。 (特にポータブル使用の方)	○	夏には部屋の外にすだれを取り付けている。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	身体機能に合わせて利用者の家具の配置、転倒防止に気をつけて置いている。(車イス・Pトイレ) 身体機能に合わせて電動ベッドも取り入れている。	○	利用者に合わせて、手すり、トイレ、浴室に道具を取り入れている。(安全の為)
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	本人にわかりやすくする為にトイレ・風呂の目印を作ったり、混乱しない様に言葉かけを常に気を配って行っている。	○	不安や混乱する物は取り除いている。 不安や失敗がある時は、スタッフ会議等で話し合いを持っているが常に勉強会などで話し合っていきたい。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	利用者に畑の野菜を作ってもらったり、花を植えたりしてもらっている。できない人は話を聞いたり、見に行ったりしている。(車イスの人も) 玄関の椅子に座り外を眺めたりしている。	○	車イスで散歩したり、ホームの周りや畑を見たりしている。

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

グループホームけやき荘

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

別に力を入れているわけではないが、利用者の中に野菜作りが大好きな方があり、毎日の様に作業されている。環境的にもホーム周辺に良い畑があり、自由に使ってもらっている。そして毎日、季節に応じて新鮮な野菜を皆さんで味あわせてもらっている。食事時にも話題に上げて利用者、スタッフ全員で感謝し、本人さんも喜んでおられる。今後も続けてもらいたいと応援している。